

開催日及び場所		平成29年6月27日(火)		横浜植物防疫所会議室	
委員		吉武 雅子(大学講師) 菊池 哲史(公認会計士) 田鍋 智之(弁護士)			
審議対象期間		平成29年1月1日～平成29年3月31日			
審議対象案件		2件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件			
抽出案件		2件 うち、1者応札案件0件 (抽出率100%) (抽出率0%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件 (抽出率0%)			
抽出案件内訳	工事	一般競争	0件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件		
		指名競争	公募型指名競争	-	
			工事希望型競争	-	
			その他の指名競争	-	
	随意契約	-			
	業務	一般競争	-		
		指名競争	公募型競争	-	
			簡易公募型競争	-	
			その他の指名競争	-	
		随意契約	公募型プロポーザル	-	
			簡易公募型プロポーザル	-	
	標準型プロポーザル		-		
	物品・役務等	一般競争	2件 うち、1者応札案件0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件		
		指名競争	-		
		随意契約(企画競争・公募)	-		
		随意契約(その他)	-		
(特記事項) 特になし					
委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問		回答等	
		動物検疫支援システム用アクセス制御の導入及び運用保守業務		調査課が担当している。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		市販している一般的な機械である。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		もちろん、動物検疫所のシステムにおいてもパスワードによるアクセス制御は実施している。しかし、インターネット上には、パスワードを解除するツールが出回っておりシステムセキュリティ的に充分とは言えない。そのため、システムにアクセスする通信を解析して制御をする機器を導入したところ。また、内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)からもシステムセキュリティ対策について万全を期すようお達しが出ている。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		アクセス制御といっても全ての通信を遮断しては職員も業務が出来なくなってしまう。そのため、動物検疫所のシステムを利用している通信を全て取得し情報を解析した上で機器の設定を行うため作業期間が長くなった。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		これまで他省庁とは実績があるようだが、今回初めて農林水産省の機関の入札に参加したと聞いている。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		使用しているソフトウェアは一般的なもので、カスタマイズして使用している。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		現在、動物検疫所の年間検査件数は約50万件。検査は相手国政府機関が発行した検査証明書の書類検査した上で現物検査を実施しているが、全て現物検査を実施するとなると、担当官の数が足りない。そのため、疾病の発生状況や輸入実績にしたがって現物検査率を算出の上、審査を実施、輸入検査手続きの簡素化と迅速化を図っているが、その検査率算出のためのツールを改修するものである。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		動物検疫所で約500名程度。横浜本所では30名くらい。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		獣医や畜産技術の資格を持っている者以外は検査ができない。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務		確かにWindowsの最新バージョンはWindows10であるが、システムやツールをパソコンの最新のバージョンに対応させようとする必要以上に多くの改修費用がかかることもある。Windows7は、システムセキュリティが確保されているOSであり、農林水産省本省の指示もあることから最新のバージョンではないが、継続して使用している状況。	
		動物検疫検査率管理ツール改修業務			
委員会による意見の具申又は勧告の内容		特になし			
[これらに対し所長が講じた措置]					